京大

平成26年度入学試験問題

地理歴史

100点満点

≪配点は，学生募集要項に記載のとおり。≫

地　理B　(1～8ページ)　　世界史B　(9～22ページ)

日本史B　(23～37ページ)

(注　意)

1. 問題冊子および解答冊子は係員の指示があるまで開かないこと。
2. 問題冊子は表紙のほかに37ページである。また，解答冊子は表紙のほかに，地理B：8ページ，世界史B：16ページ，日本史B：8ページ，である。
3. 問題は地理B 4題，世界史B 4題，日本史B 4題である。
4. 試験開始後，選択した科目の解答冊子の表紙所定欄に学部名・受験番号・氏名をはっきり記入すること。表紙には，これら以外のことを書いてはならない。
5. 総合人間学部「文系」，文学部，法学部受験者は，大学入試センター試験で受験した科目以外の科目から選択すること。ただし，地理B・世界史B・日本史Bから2科目を受験したときは，第1解答科目以外の科目から選択すること。
6. 教育学部「文系」，経済学部「一般」受験者は，どの科目も選択することができる。
7. 解答は，すべて解答冊子の指定された箇所に記入すること。
8. 解答に関係のないことを書いた答案は無効にすることがある。
9. 解答冊子は，どのページも切り離してはならない。
10. 問題冊子は持ち帰ってもよいが，選択した科目の解答冊子は持ち帰ってはならない。

世　界　史 B　（4 問題　100 点）

I　世界史B問題　（20 点）

中国の科挙制度について，その歴史的な変遷を，政治的・社会的・文化的な側面にも留意しつつ，300 字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

Ⅱ 世界史B問題 (30点)

次の文章(A，B)を読み，［　　］の中に最も適切な語句を入れ，下線部(1)～(15)について後の問に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A　渭水流域に興った周王朝は，紀元前11世紀に殷王朝を滅ぼすと，東方地域に対する統治拠点を現在の河南省洛陽市に建設した(洛邑，成周)。西方の黄土高原と東方の華北平原の中間に位置するこの都市は，地理的にも「土中(どちゅう)」(天下の中心)と呼ぶにふさわしい位置にあり，以後，いくつもの王朝がこの地に都を置くこととなる。

梁の［ a ］によって編纂された詞華集『文選』には，『漢書』の撰者として名高い［ b ］が作った「両都賦」なる作品が収められている。作中，「天下の中心に位置し，平らかに四方に開け，万国が集い来る」とうたわれた「東都」とは，後漢の都洛陽に他ならない。南北9里・東西6里の城郭を有したことから「九六城」とも呼ばれるこの都城の規模は，周囲60里とされる「西都」長安にくらべればかなり小さなものであった。

2世紀末に黄巾の乱(1)が起こると各地で群雄が割拠し，洛陽も戦乱の渦中に巻き込まれたが，後漢の献帝に代わって皇帝の位に即いた［ c ］は，やはり洛陽に都を定めた。魏に続く西晋もこの地を都としたが，その後起こった八王の乱をきっかけに国内は混乱し，五胡のうち山西で挙兵した［ d ］によって西晋は滅亡，江南に難を逃れた皇族が王朝を再興する(2)。

4世紀末，鮮卑の拓跋珪(たくばつけい)は，華北に勢力を伸張すると皇帝を名乗り［ e ］を都としたが，5世紀末，漢化政策を進める孝文帝(3)が洛陽遷都を敢行した。6世紀初頭，東西20里・南北15里の城郭が従来の城郭の外側に新築され，洛陽城は面目を一新する。城内には宮殿や官庁，貴族の邸宅のほか，王朝の保護を受けた仏教(4)の寺院が1000以上も並び立っていたという。しかしその繁栄も，王朝末期に起こった内乱によってわずか40年ほどで終焉を迎える。

洛陽が王城の地として復活を遂げたのは，隋の煬帝の時である。父の文帝が前漢長安城の南に造営した大興城とは別に，煬帝がこの地に新都を造営したことは，江南と華北を結ぶ大運河(5)の建設と密接に関連している。

唐王朝は長安と洛陽の両方に都の機能を置き，「西京」・「東都」と称されたが，7世紀末に帝位に即いた［ f ］は洛陽を「神都」と改称し，自ら建てた王朝の首都と位置づけた。唐代の長安・洛陽については，清代の考証学者徐松(6)の手になる『唐両京城坊攷(こう)』が詳細な情報を提供してくれる。

9世紀末，［ g ］の密売人黄巣が起こした反乱を契機として，唐王朝は統治能力を失い滅亡した。10世紀半ばに成立した宋王朝は洛陽を「西京」としたものの，その実態は，規模においても繁栄ぶりにおいても「東京」開封(7)には遠く及ばぬ地方都市にすぎなかった。「新法」と呼ばれる王安石の改革に反対した［ h ］が，閑職につきながら『資治通鑑』の編纂に没頭したのも，この時代の洛陽であった。

問

(1) この反乱を起こした宗教結社の指導者の名を記せ。

(2) 江南で再興した晋王朝に仕え，「女史箴図」の作者として知られる人物の名を記せ。

(3) 孝文帝は内政の充実につとめる一方で，南朝に対する親征を行っている。その時の南朝の王朝名を記せ。

(4) インドのグプタ朝でも仏教は保護され，教義研究のための施設が王により設置された。玄奘や義浄も学んだというこの施設の名を記せ。

(5) 隋の煬帝が建設を命じた大運河のうち，黄河と淮河を結ぶ運河の名を記せ。

(6) 徐松が参画した国家的文化事業の一つに『全唐文』の編纂がある。唐から五代にかけて作られたあらゆる文章の集成を目指したこの事業では，15世紀初めに勅命を受けて編纂された中国最大級の「類書」が大いに活用された。この書物の名を記せ。

(7) 唐王朝を滅ぼし，開封を都として王朝を開いた人物の名を記せ。

B　イラン(ペルシア)の歴史や文化は，決してイラン系民族のみが築いたものではない。また，イラン系民族の活動や広義のイラン文化の繁栄は，現在のイランの領域をはるかに越えている。

前6世紀中頃イラン高原におこったアケメネス朝はオリエントを統一し，東は［ i ］川流域に達する大帝国を築いた。このアケメネス朝期にイランの民族的宗教ゾロアスター教が栄え，また楔形文字を用いてペルシア語を記すようになった。前330年アケメネス朝がアレクサンドロス大王に滅ぼされると，(8)イランとその周辺においてヘレニズム文化の影響が顕著となったが，3世紀前半におこったササン朝では，ペルシア語が活発に用いられ，(9)ゾロアスター教が国教とされた。

651年ササン朝が滅びると，イランのイスラーム化が進行する。750年(10)アッバース朝成立の原動力となったのはホラーサーン駐屯軍であった。ホラーサーンは，現在のイラン東北部・アフガニスタン西北部・トルクメニスタン東南部をあわせた地域で，歴史的なイランの東北部にあたる。9世紀前半このホラーサーンにターヒル朝，9世紀後半には，ホラーサーンの南接地域にサッファール朝，中央アジアにサーマーン朝と，次々にイラン的なイスラーム王朝がおこった。(11)サーマーン朝は，10世紀にはホラーサーンをも支配し，領内でイスラーム化されたイラン文化を発展させた。また，946年バグダードを占領したイラン系の［ j ］朝はシーア派を信奉し，ササン朝の末裔と称した。サーマーン朝のトルコ系マムルーク出身の武将が建てた［ k ］朝や，11世紀半ばに［ k ］朝を破り12世紀半ばまでイランを支配したセルジューク朝のもとでは，(12)イラン＝イスラーム文化，特にペルシア文学が盛んになった。

13世紀前半モンゴルの侵攻が始まり，イランを含む西アジアでは，1258年アゼルバイジャンを拠点とするイル＝ハン国が成立した。(13)イル＝ハン国のモンゴル支配階級はイスラーム化し，領内ではイラン＝イスラーム文化が復興した。イル＝ハン国滅亡後の1370年トルコ系のティムール朝がおこり，旧イル＝ハン国領と旧［ l ］＝ハン国領を広く支配した。(14)ティムール朝期中央アジアのサマルカンドやホラーサーンのヘラートでは学芸・都市文化が著しく

発展した。16 世紀初頭アゼルバイジャンにおこったサファヴィー朝(15)は当初トルコ系諸部族に支えられていたが，君主はイラン的なシャーの称号を採用し，シーア派を国教として周辺のスンナ派諸国と対立した。後にホラーサーンにおこったアフシャール朝や [m] を首都としたカージャール朝の王族は，かつてサファヴィー朝を支えたトルコ系部族の出身であった。

問

(8) ヘレニズム時代当初，イランとその周辺を支配した王朝の名を記せ。

(9) ササン朝期にゾロアスター教の聖典が編纂された。その名を記せ。

(10) アッバース朝の成立とともに広大な領土を誇ったイスラーム王朝が滅んだ。

(ア) このイスラーム王朝の名を記せ。

(イ) この王朝の首都はどこか。その名を記せ。

(11) この頃のサーマーン朝の首都はどこか。その名を記せ。

(12) セルジューク朝に仕えたある人物は，ペルシア詩人・天文学者・数学者であり，ペルシア詩だけでなく，精密な暦の共同作成でも知られている。

(ア) この人物は誰か。その名を記せ。

(イ) 19 世紀に英訳された，この人物のペルシア詩集の名を記せ。

(13) 13 世紀末にイスラーム教徒となり，イスラームを国教化したイル＝ハン国君主は誰か。その名を記せ。

(14) サマルカンド郊外に天文台を建設し，その観測結果にもとづいた『天文表』作成に自ら参加したティムール朝王族(後に君主)は誰か。その名を記せ。

(15) 現イラン東アゼルバイジャン州の州都であり，イル＝ハン国の首都にもなった，サファヴィー朝初期の首都はどこか。その名を記せ。

Ⅲ 世界史B問題 (20点)

第二次世界大戦終結から冷戦の終わりまでの時期におけるドイツの歴史を，ヨーロッパでの冷戦の展開との関連に焦点をあてて，300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

Ⅳ 世界史B問題 (30点)

以下の文章(A，B，C)を読み，［　　］の中に最も適切な語句を入れ，下線部(1)～(22)について後の問に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A　11世紀のイベリア半島ではアル＝アンダルス(ムスリム支配地域)が政治的に分裂し，キリスト教諸国が軍事的に優位に立った。以来レコンキスタ(国土回復運動)は，マグリブ(北西アフリカ)のベルベル系ムラービト朝(1)とそれに続く［ a ］朝によるアル＝アンダルス遠征のために一時停滞したものの，12～13世紀に急速に進展した。この間にキリスト教諸国ではナバーラ王国の優位が崩れ，カスティーリャ＝レオン王国・アラゴン連合王国・［ b ］王国の三国が強勢となった。なかでもカスティーリャ＝レオン王は一時「皇帝」の称号をローマ教皇から許され(2)，キリスト教諸国への宗主権を主張した。カスティーリャ＝レオン王国は分裂・統合を繰り返した後，1230年に再統合された。それに先だって，カスティーリャ王を中心とするキリスト教諸国軍は1212年の戦いで［ a ］軍を破っており，その後南進を加速させ，1240年代までに［ c ］王国を除いて半島内のレコンキスタをほぼ完了させた。

この後キリスト教三国のなかでいちはやく海外進出を果たしたのはアラゴン連合王国である。同国はバルセローナ伯領を中心とするカタルーニャ地方とアラゴン王国を束ねた同君連合(3)国家で，ピレネー山脈の北側にも支配を及ぼしていたが，13世紀初頭にこれを喪失した。ハイメ1世はバレンシア征服でレコンキスタに区切りをつける一方で，地中海への進出を目指してバレアレス諸島を征服した。1282年「シチリアの晩鐘」事件(4)がおこると，ペドロ3世はこれに乗じてシチリア王位を獲得した。後にサルデーニャとアテネ公領などもアラゴン連合王国に組み込まれた。こうしてアラゴンの地中海帝国が形成された。

アラゴン連合王国の政治と経済において牽引役を果たしていたのはカタルーニャであった。カタルーニャ，とくにバルセローナの商人は東地中海からシチリアを経て南フランス，マグリブ，北大西洋に及ぶ広範な海上貿易で活躍した。その基軸は毛織物などをマグリブに輸出し，マグリブで得た金によってベ

イルート，エジプトの［　d　］やカイロでアジア産の香料(5)を入手し，それをヨーロッパにもたらすことにあった。この地中海貿易は14世紀に頂点に達し，海上保険や為替制度などの発展，海事法典の整備が促された。

しかし，黒死病の影響による生産力の低下や海洋帝国を維持するための軍事的負担増はアラゴン連合王国の将来に暗い影を落とした。金融危機や反ユダヤ暴動などを背景に，14世紀末以降同国は全般的な危機に陥り，海上貿易もジェノヴァ人やカスティーリャ人との競合の激化で縮小に転じたのである。

問

(1) ムラービト朝は西サハラを縦断するキャラバン交易を支配し，ニジェール川上流およびセネガル川上流産の金を入手した。

(ア) 金と引きかえにサハラ以南にもたらされた商品のうち代表的なものは何か。その商品の名を記せ。

(イ) サハラ南縁で「黄金の国」として繁栄したが，ムラービト朝の攻撃を受けて衰退した国はどこか。その国の名を記せ。

(2) 皇帝アルフォンソ6世は1085年トレドを奪回したが，ムスリム支配以前にトレドを首都としていた国はどこか。その国の名を記せ。

(3) 14世紀末の北欧でも同君連合が成立したが，その実権を握ったのは誰か。その人物名を記せ。

(4) この事件で住民暴動の標的となった王家は何か。その王家の名を記せ。

(5) 14世紀末までにこの香料貿易を支配することになったアドリア海の港市国家はどこか。その国家の名を記せ。

B　国家の構成員が政治に参加する仕組みはいかにあるべきか，という問題をめぐって，ヨーロッパでは，古代以来，さまざまな議論が行われ，また，多様な制度が生み出されてきた。たとえば，古代のアテネでは，紀元前6世紀初めの改革によって血統ではなく財産額に応じて市民の政治参加の道が開かれたのち，前508年に指導者となったクレイステネスによって民主政の制度的な基礎が築かれた。その後，アテネでは，前5世紀に無産市民の発言力が強まり，民会が政治の最高機関となった。民会には，18歳以上の市民権をもつ成人男子が参加を認められたが，女性，在留外人，奴隷には参政権が与えられなかった。古代ローマにも，市民が直接参加する政治集会が存在した。前287年には，護民官によって招集される民会(平民会)の決議が，元老院の承認なしで国法と認められるようになった。しかし，帝政期にはいると，民会は立法上の機能を失い，形骸化していった。他方で，ローマ帝国の周辺部の諸民族のなかには，自由人が集会を開いて共同体の問題について決定する慣習をもつ集団が存在した。

中世から近世にかけてのヨーロッパでは，君主が新たな課税や立法を行うさいに諸身分と交渉する場として，身分制議会が成立した。身分制議会の構成員は，自らが所属する身分の利益を君主に対して代表していたが，議会を構成する身分の範囲は地域によってさまざまであった。諸身分が君主の政策に同意しない場合には，議会と君主のあいだで激しい対立が生じ，君主が議会の招集を停止することもあった。18世紀後半のイギリスでは，議会の権限をめぐって，本国と北米植民地のあいだで議論が起こった。本国側の政策に不満を抱いた北米植民地は，やがて本国から独立して，独自に近代的議会制度を発展させた。

1789年にフランスの国民議会が採択した「人権および市民権の宣言」は，「すべての主権の根源は，本質的に国民のうちに存する」(第3条)，また，「法は，一般意志の表現である。市民はすべて，自分自身で，あるいはその代表者をつうじて，その形成に協力する権利をもつ」(第6条)と認めている。しかし，19世紀をつうじて，欧米諸国においても，選挙権を行使する集団の範囲は，財産や性別によって，なお限定されたものであった。ヨーロッパ諸国やアメリカ合

衆国で，女性に国政に参加する権利が認められたのは，ようやく20世紀になってからのことである。こうした参政権の獲得も含めて，財産や人種や男女の違いを越えて，より多くの人びとに国民としての権利が保障されるためには，長い闘いが必要であった。(15)

問

(6) このとき貴族と平民の調停者として改革を指導した人物の名を記せ。

(7) 僭主の出現を防ぐためにクレイステネスが導入した制度の名を記せ。

(8) このことを定めた法の名称を記せ。

(9) 紀元後1世紀末に，このような習俗の記述を含む民族誌『ゲルマニア』を著した歴史家の名を記せ。

(10) フランスでは，1302年に聖職者，貴族，平民の代表者が出席する三部会が開かれた。このときの三部会を招集した国王の名を記せ。

(11) 1628年，イギリスの議会は，国王の恣意的な課税や不法な逮捕・投獄を批判する文書を提出した。国王はいったんこれを受け入れるが，翌年議会を解散し，以後11年間にわたって議会を開かずに専制的に統治した。この1628年の文書の名称を記せ。

(12) この議会の権限の問題は，1765年に印紙法が成立したさいに，本国と北米植民地が対立する争点となった。このとき，植民地側が掲げた主張を記せ。

(13) 1787年に採択されたアメリカ合衆国憲法は，人民主権，連邦主義に加えて，国家による権力の濫用を防ぐ原理を採用している。モンテスキューによっても唱えられたこの原理の名称を記せ。

(14) フランスでは，この年の初めに，ある聖職者が特権身分を痛烈に批判するパンフレットを刊行し，大きな反響を呼んだ。この著作の題名を記せ。

(15) アメリカ合衆国では，1950年代半ばから1960年代にかけて，黒人に対する差別に反対する運動が高揚した。この運動の成果として1964年に制定された法律の名称を記せ。

C　フランス人ヴェルヌが1872年に書いた小説『80日間世界一周』は，多数の言語に翻訳され，19世紀後半の世界的ベストセラーの一つになった。主人公のイギリス人男性が，1872年のこと，80日間で世界を一周することができると主張し，ロンドンを出発してスエズ運河(16)，インド亜大陸，マレー半島，中国大陸沿岸，日本列島，北アメリカ大陸を経由し，ロンドンに戻ってくる話である。蒸気機関が長距離移動手段として実用化されるようになった当時の交通状況を背景に書かれていることが，人気を博した一因であった。

この小説には，ヴィクトリア女王下のイギリスが世界において占めていた地位も反映されている。経済的にも軍事的にもイギリスが他国を圧倒する大きな力を持っていた19世紀後半の世界(17)で，主人公は，イギリスの支配下にあった地点を経由してアジアを旅するのである。インドでは，西海岸にあってイギリスによる経済活動の拠点であった都市(18)に上陸し，ついで，「海峡植民地」ではシンガポール(19)に寄港した。そして中国では香港に，日本では長崎と横浜(20)に主人公は立ち寄った。日本はイギリスの政治的支配下にあったわけではない。だが，長崎や横浜などの開港を1850年代に日本がイギリスなど欧米列強と約した諸条約は，日本側に不利な不平等条約(21)であり，当時の日本も，イギリスの大きな力の影響下にあった。

当時の欧米諸国にひろがっていた人種差別・民族差別の心性も，この小説のなかに色濃い。アメリカ大陸横断鉄道の列車を襲う先住民(インディアン)を主人公が撃退する，というエピソードが挟み込まれているのである。じっさい先住民が鉄道工事を妨害し，列車を襲撃することはあった。だがこの小説には，先住民がこうした行為に及ぶ理由への考察が欠けていた。アメリカ大陸横断鉄道の建設は，先住民の保留地にも及んだために，狩猟で生活の糧(かて)(22)を得る彼らの生存を脅かしたのである。

問

(16) スエズ運河が位置するエジプトでは，1870年代当時，イギリスとフランスが経済的影響力の拡大を競っていた。

(ア) 当時のエジプトの実質的統治権は，19世紀初頭にエジプト総督となったある人物の子孫によって世襲されていた。この人物の名を記せ。

(イ) 当時のエジプトは，ある産物のモノカルチャー化が進展し，その国際価格の動向によって国家経済が左右される状況にあった。その産物の名を記せ。

(17) イギリス優位のこのような世界の状況は，何と呼ばれるか。

(18) この都市の名を記せ。

(19) イギリスの「海峡植民地」は，シンガポールとペナンにくわえ，もう一つ港市を併せて1826年に形成された。もう一つの港市の名を記せ。

(20) 19世紀後半，これらの港は，中国および日本からの国際市場向け産品の輸出港として賑(にぎ)わっていた。両国に共通するもっとも重要だった産品の名を，二つあげよ。

(21) このような不平等条約を，1840年代に清朝もイギリスなど欧米列強と結んだ。不平等の内容を簡潔に記せ。

(22) 鉄道会社への公有地払い下げなど，大陸横断鉄道の建設を推進する法律が制定された1862年には，西部で5年間定住し開墾した者に公有地が無償で与えられる法律も制定された。先住民の生活空間をますます狭める原因になった後者のこの法律は，何と呼ばれるか。

世界史B問題は，このページで終わりである。